

【研究主題】 ふれあい鯉のぼり祭りへの参加を通して学校教育目標にせまる

【学校名】 大津市立真野小学校

1 本校の概要

本校は、明治8年に開校した歴史ある学校です。地域の住民の中には、本校の卒業生も少なくありません。平成2年に真野北小学校と分離し、現在の児童数は434名（令和6年5月1日現在）です。

真野学区は大津市北部に位置し、東は琵琶湖に面し、北は比良山、西は比叡山を望む風光明媚な地域です。また、大津市内で最も古い遺跡が発見されている地区でもあり、曼陀羅山古墳群、春日山古墳群、神田遺跡など、歴史的価値の高い遺跡が数多く存在します。中でも、校長室に保管されている「旧シガゾウの化石」は、琵琶湖博物館でレプリカとして展示されるほど貴重なものです。

2 取り組んだ内容

(1) ふれあい鯉のぼり祭りへの参加



本祭りは、学校近くを流れる真野川の堤防に、地域住民が持ち寄った約100本の鯉のぼりを掲げるもので、30年

以上にわたり続く地域行事の一つです。「真野と言えば鯉のぼり」とまで言われるほど親しまれています。

近年は、川の護岸改修や新型コロナウイルス感染症等の影響により、掲げる鯉のぼりの本数は4～50本に減少しましたが、毎年、真野小学校ではクラスごとに鯉のぼりを手作りし、祭りに参加しています。

真野川沿いに泳ぐ色とりどりの鯉のぼりの風景は、5月の訪れを感じさせるだけでなく、真野小の子どもたちの心に「故郷の風景」として深く刻まれることでしょう。

(2) クラスごとの鯉のぼり作成

新年度早々に開催される大きなイベントです。毎年この時期になると、子どもたちは「今年も鯉のぼりの季節がやって来た」と感じるとともに、新たな仲間と

協力して1匹の鯉のぼりを作り上げる活動を通じ、クラスの団結を誓います。

不織布をベースに、両面テープやアイロンなどを駆使して、全長5mにもなる大きな鯉のぼりを作ります。真っ白な体にポスターカラーを用い、クラスの特徴を生かした色付けを行い、鯉のおなかには学級目標が記されます。空高く泳ぐ鯉のぼりに、クラスの願いが込められるのです。

この行事は毎年続けられていますが、教職員だけでは継承が難しいため、地域の「こいこいクラブ」やサポーターの皆さんがボランティアとして丁寧に支援してくださっています。

3 活動の成果

本校は「自分が好き」「人が好き」「真野が好き」といえる子どもの育成を教育目標に掲げ、日々の学びに取り組んでいます。この活動は、個々だけで行うものではなく、クラスの仲間と協力してより良い作品に仕上げるために、自分の役割に責任を持って取り組む必要があります。1年生から6年生まで参加するため、発達段階による違いはあるものの、最後まで自分の役割を意識しながら仲間と協力してやり遂げた経験が「自分が好き」に、クラス全体で一つの大きな作品を完成させた喜びが「人が好き」に、そして何よりも、地域の方々とともに大きなイベントの一部を担うことで、真

野という故郷の魅力を改めて実感し「真野が好き」という気持ちにつながると信じています。

